

# 芸術 音楽Ⅲ

『あなたの好きな音楽作品をみんなに紹介しよう(鑑賞)』

## 【自分の好きな音楽作品について調べ、整理、発表する活動を通し、作品への理解を深める】

●ワーク①●	
選んだ作品について	
曲名	Stand By You
作曲家	藤原聡
作詞者	藤原聡
アーティスト	Official髭男dism
演奏者・指揮者等	
●ワーク②●	
その曲を選んだ理由 『Stand By You』は最近この曲ばかり聴いてほしいという曲、聴けそうにならなくて泣きながら聴く曲だったので聞いてほしいと思ったから、この曲のどっかところがそう思えるのかも間違いない。その曲や世界などについて調べ、歌詞や曲の背景などについて調べ、自分なりに整理して発表する。その曲や世界などについて調べ、歌詞や曲の背景などについて調べ、自分なりに整理して発表する。	
●ワーク③●	
この曲を選んだ理由 この曲を選んだ理由は、私が聴いて感動した曲だったので、聴いてほしいという気持ちで発表したい。その曲や世界などについて調べ、歌詞や曲の背景などについて調べ、自分なりに整理して発表する。	

### 活用場面

一斉学習

教師による教材の提示

個別学習

個に応じた学習

調査活動

思考を深める学習

表現・制作

協働学習

発表や話し合い

スライド作成用事前記入シート(生徒の記入あり)

### 活用した機器等

Chromebook  
プロジェクター

### 活用したアプリ等

Google Classroom  
Google ドキュメント  
Google スライド



生徒が作成したスライドの例

### 学習のねらい

これまでの音楽の授業の中で学習した、作品の背景やあらゆる音楽要素から楽曲分析し表現する過程や、楽典で学んだこと等をヒントに、自分なりに端末を活用して作品を調べ、作品の背景や音楽要素の特徴からその作品のおすすめポイントを聞き手に伝える。その活動を通し、幅広い情報の中から必要な情報を整理し、作品の良さを醸し出しているものが一体何なのかを主体性を持って探ることで、より作品への理解を深めることへつなげる。

### 学習の流れ

導入

これまで学習してきた作品への向き合い方、楽譜の読み取り方を振り返る。その過程に沿って、プレゼンテーションの流れをイメージし、作品やアーティスト、作曲家、プレイヤーの背景やプロフィール、エピソードを各自で調べていく(作品との関わりを感じさせる内容をピックアップしていく)。

展開

楽譜や歌詞に着目し、その曲の「らしさ」や「ここ良い!!」の要因を分析し、探る。また、その要因になる音楽要素や歌詞の特徴が聴き手に与える気持ちの変化や効果を整理する。  
必要に応じて楽譜や音楽要素を図等を用いながら、Google スライドで提示資料を作成する。

まとめ

作品の作られた背景やエピソード、注目すべき音楽的な特徴とその効果などをまとめて発表する。  
活動を通して得られたこと、今後どう活かすことができるか等を振り返ることで、作品への愛着や理解を深め、他の作品を鑑賞する上での新たな聴き方や鑑賞につなげる。

### ココでICTを活用!

インターネットで検索し調べた情報を、発表の流れをイメージしながら、Google ドキュメントのスライド作成用シートに整理させた。それを毎時間、Google Classroomで提出させ、教員がコメント機能を用いてアドバイスをし返信するというやりとりを3回繰り返した。

課題の提出・添削をGoogle Classroomを介して行うことで、ペーパーによるもの以上に時間短縮でき、スムーズな授業展開が可能となった。また、それぞれの進捗状況の把握もやすかった。

Google スライドを用いて調べたこと、分析したことをまとめた提示資料を作成させ、発表も行った。

### 活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

調べ学習、整理、スライド作成まで同じ端末上で行ったが、画面の見やすさや文字入力のしやすさが生徒の活動の広がりにつながった。また、生徒との作業内容のやり取り、添削指導に関して、時間短縮をしつつスムーズに行うことができた。

調べたものを整理し、スライドで見やすくまとめるといった、生徒自身による作業の過程が、その内容に対する理解にも大きく繋がるきっかけになっており、主体性を持った活動を行うことが知識・技能や思考・判断・表現へと効果的に働いていることを感じた。

ただ、スマートフォンとは異なりキーボード操作が必要な端末について、不慣れな生徒と慣れていない生徒との進度の差は見られた。日常的に使うことで慣れていくと思うが、その差があることを念頭に置いてゆとりをもって授業に取り掛からないと、生徒間のばらつきが出てしまうので注意したい。